

丹沢大山地域の大型菌類について (Ⅲ)

西村 幹雄・藤澤 示弘

Mikio Nishimura and Tokihiro Fujisawa :
Macrofungi Recorded from Tanzawa-Oyama Area (Ⅲ)

はじめに

神奈川県西部に位置する丹沢大山地域における大型菌類の調査は、過去に東丹沢で日本菌学会、日本菌学会関東支部、神奈川きのこの会の観察会により実施されている。そして最近では 2004～2005 年に丹沢大山総合調査が実施され、丹沢大山総合調査団生きもの再生チーム菌類調査グループにより丹沢大山地域の菌類相調査が行われ、調査報告書が刊行された。本調査には著者らも調査員として参加し、数多くの標本が採集され、丹沢大山地域における総合的な菌類相の報告がなされた(城川ほか, 2007a, 2007b; 出川, 2007; 出川ほか, 2007)。

しかし、大型菌類の子実体の発生は温度、湿度などの気象条件により大きく左右され、その条件も種によって異なる。そのため、2 年間の調査期間で全ての菌類相を解明することは困難である。一方、著者らは 2000 年からこれまでに丹沢大山地域のブナ帯を中心に大型菌類の広域発生調査を行っており、前報(西村・藤澤, 2005, 2007)では神奈川県で採集例の少ない種について報告した。今回は著者らが行った広域発生調査において採集さ

れた標本のうち、主としてブナ帯に分布する菌類を中心に、前報では報告していないものについて過去の報告、採集例を併せ、神奈川県内における分布について報告した。本報告が総合調査の補完となれば幸いである。なお、本研究は丹沢大山森林保全基礎調査事業・ブナ林衰退の機構解明に関する研究・森林微生物の保全と利用技術に関する研究(神奈川県自然環境保全センター)の一環として実施したものである。

調査方法

前報(西村・藤澤, 2005, 2007)と同様、登山道およびその周辺にコースを設定し(表 1)、2000 年 9 月～2006 年 9 月の 5 月～11 月間、各月平均 3～4 回程度踏査し、コースの両側おおむね約 10m 以内に発生した菌類を採集した。採集された菌類は、熱乾燥標本または真空凍結乾燥標本として、神奈川県自然環境保全センター(以下、自環保セ)に保管、一部は神奈川県立生命の星・地球博物館(以下、県博)に収蔵されている。

表 1. 調査コース

西丹沢地区	東丹沢地区
山北町東沢林道～檜洞丸	秦野市ヤビツ峠～伊勢原市大山
山北町中川相馬沢	清川村天王寺尾根～丹沢山～堂平
山北町弁当沢頭～蛭ヶ岳～熊木沢	清川村札掛～長尾尾根
山北町ユースン～檜洞丸～臼ヶ岳	丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳
山北町玄倉地内(県有林45林班)	
山北町簗杉沢～塔ノ岳	
山北町簗杉沢～竜ヶ馬場	
山北町簗杉沢～不動ノ峯	
山北町三国山	
山北町西丹沢自然教室～檜洞丸	
山北町世附地内	
山北町菰釣山	
津久井町神ノ川線～熊笹ノ峰	
犬越路～大室山	
秦野市二俣～鍋割山	

調査結果

凡例

- (1) 採集地 (標本番号, 採集日, 林相または基質, 採集者) の順に表示した。
- (2) 採集者名はそれぞれ, 藤澤示弘 (FT), 西山徳行 (NN), 長倉泰司 (NT), 長谷川雄太 (HY), 西村幹雄 (NM) と略記した。
- (3) 学名は Index fungorum に, 分類体系は Kirk *et al.* (2001) に従った。

ニクアツベニサラタケ (ベニチャワンタケ科)

Phillipsia domingensis (Berk.) Berk.

秦野市西山林道 (20040907021, 2004/9/7, NM)

神奈川県各地で確認され, 県内低地では普通種とされる (城川ほか, 2007b)。熱帯圏を中心に分布するとされる (大谷, 1980) が, 丹沢山地域ではこの他に山北町ヤドロギ沢 (城川, 1997), 山北町大又沢 (城川ほか, 2007) で採集されている。また, 1970 年 10 月に丹沢 (詳細産地は未表記) で採集されている (大谷, 1980)。

ヒロメノトガリアミガサタケ (アミガサタケ科)

Morchella costata (Vent.) Pers.

山北町檜洞丸 (KPM-NC-0008900, 2001/5/18, ブナ林, FT・NM; 20020523006F, 2002/5/23, FT・NM), 山北町玄倉 (20010605001F, 2001/6/5, ブナ林, FT), 清川村丹沢山 (20020606002F, 2002/6/6, ブナ林, FT・NM) (図 1)。
神奈川県ではこの他に, 県博に山北町西沢ノ頭付近 (KPM-NC-0010994, 2003/6/5) の標本がある。また, 西丹沢 (1994/5/21, 詳細産地は未表記) で採集されている (城川, 1997)。

ムカシオオミダレタケ (アボルピウム科)

Elmerina holophaea (Pat.) Parmasto

清川村堂平 (20030716203F, 2003/7/16, FT・NT・HY・NM; 200309, 23102F, KPM-NC-0011817, 2003/9/23, NT・NM; 20050721010, 2005/7/21, NM; 20050829009, 2005/8/29, NM; KPM-NC-0009315, 2001/6/29, NM・FT), 山北町檜洞丸 (20040824003, 2004/8/24, 広葉樹倒木, FT・NM; KPM-NC-0009106 2001/6/13, NM・FT; 20050728001, 2005/7/28, NM)。

神奈川県ではこの他に, 県博に山北町檜洞丸 (KPM-NC-0001755, 1979/7/30), 丹沢 (KPM-NC-0001775, 1980/7/15, 詳細産地は未表記) の標本がある。

神奈川県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている (出川, 2006)。

ブナハリタケ (エゾハリタケ科)

Mycoleptodonoides aitchisonii (Berk.) Maas Geest.

山北町檜洞丸 (20031009201F, 2003/10/9, ブナ倒木上, NN・NM), 清川村丹沢山 (20020922011F, 2002/9/22, NN・NM; 20040907023, 2004/9/7, ブナ林内, 広葉樹枯立木, NM; 20050711010, 2005/7/11, NM; KPM-NC-0009316, 2001/9/19, NM・FT), 山北町蛭ヶ岳

(20020922012F, 2002/9/22, NN・NM)。

神奈川県ではこの他に, 県博に菰釣山 (KPM-NC-0011959, 2003/10/31) の標本がある。城川ほか (2007) によると普通種であるという。

エゾハリタケ (エゾハリタケ科)

Climacodon septentrionalis (Fr.) P.Karst.

山北町箒杉沢～塔ノ岳 (20020827003F, 2002/8/27, ブナ林, NN・NM), 清川村丹沢山 (20020905001, 2002/9/5, NT・NN; 20040907023, 2004/9/7, NM), 秦野市大丸尾根 (20040804009, KPM-NC-0014649, 2004/8/4, ブナ枯立木, NM)。

神奈川県ではこの他に, 山北町金山谷の頭 (1994/8/20) で採集されている (城川, 1997)。

アケボノハリタケ (エゾハリタケ科)

Climacodon roseomaculatus (Henn. & E.Nyman) Jülich

山北町檜洞丸 (KPM-NC-0005336, 2001/7/4, NM・FT; KPM-NC-0008930, 2001/6/12, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に, 県博に山北町檜岳 (KPM-NC-0000801, 1075/6/29, 今関六也同定), 山北町白ヶ岳 (KPM-NC-0000802, 1979/7/30, 今関六也同定), 清川村堂平 (KPM-NC-0007103 2000/9/10, 日本菌学会関東支部観察会, 服部力同定) の標本がある。また, 厚木市七沢 (1991/7/14), 清川村札掛 (1990/10/10), 津久井町焼山 (1990/10/10), 山北町つつじ新道 (1981/7/12), 山北町つつじ新道ゴーラ沢出合 (1995/6/29) で採集されている (城川, 1997)。城川ほか (2007) によればややまれであるという。

ツリガネタケ (サルノコシカケ科)

Fomes fomentarius (L.) J. J. Kickx

山北町三国山 (20030909101 F, 2003/9/9, ブナ林内, ブナ倒木上, NT・NM), 山北町棚沢の頭 (KPM-NC-0005982, 2001/10/3, NM・FT), 山北町檜洞丸 (KPM-NC-0008896, 2001/5/18, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に, 県博に丹沢山 (KPM-NC-0001245, 1978/3/15, 今関六也同定), 清川村堂平 (KPM-NC-0007102, 2000/9/10, 日本菌学会関東支部, 服部力同定) の標本がある。また, 清川村堂平 (1989/11/21, 1989/11/22, 1989/11/26), 山北町丹沢山 (1970/10/10) で採集されている (城川, 1997)。

本種はブナなどに幹心腐病を起こすという (日本植物病理学会, 2000)。

マスタケ (サルノコシカケ科)

Laetiporus sulphureus (Bull.) Murrill

清川村堂平 (20010618001F, 針葉樹倒木上, 2001/6/18, NM・FT, 20030923105F, 針葉樹倒木上, NT・NM)。

神奈川県ではこの他に清川村堂平 (1989/11/22, 1990/10/15), 清川村札掛 (1990/10/10), 西丹沢 (1994/6/3, 詳細産地は未表記) にて採集されている (城川, 1997)。
針葉樹に発生するものと広葉樹に発生するものは別種であるという (太田・服部, 2007)。

トンビマイタケ (サルノコシカケ科)

Meripilus giganteus(Pers.)P.Karst.

清川村堂平 (20050829003, KPM-NC-0013096, 2005/8/29, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に、県博に山北町白ヶ岳 (KPM-NC-0006323 KPM-NC-0006343, 1994/8/20), 菰 釣 山 (KPM-NC-0011623, 2003/10/31) の標本がある。また、山北町大室山山頂附近 (1991/8/25) で採集されている (城川, 1997)。

オツネンタケモドキ (サルノコシカケ科)

Polyporus brumalis (Pers.) Fr.

山北町三国山 (20030811202 F, 2003/8/11, ブナ倒木上に発生, NT・NM), 清川村堂平 (20030923201F, 2003/9/23, ブナ倒木上に発生, NT・NM)。

神奈川県ではこの他に、県博に山北町大室山 (KPM-NC-0001312, 1979/11/23, 今関六也同定), 清川村堂平 (KPM-NC-0007101, 2000/9/10, 日本菌学会関東支部観察会, 服部力同定) の標本がある。また、平塚市土屋 (1993/9/2), 大磯町高麗山 (1990/7/26), 清川村堂平 (1989/11/22), 箱根町 (1991/11/23) で採集されている (城川, 1997)。

城川ほか (2007) によれば普通種であるという。

エビタケ (マンネンタケ科)

Ganoderma tsunodae Yasuda

山北町石小屋の頭 (KPM-NC-0011868, 2001/10/4, NM・FT), 山北町白ヶ岳 (KPM-NC-0011869, 2001/10/4, NM・FT), 清川村堂平 (20020806120F, 2002/8/6, FT : 20050811002, 2005/8/11, NM)。

神奈川県ではこの他に、県博に丹沢山 (KPM-NC-0001587, 1984/8/6), 自環保セに清川村天王寺尾根 (20020806016F, 2002/8/6) の標本がある。

神奈川県では絶滅危惧 I A 類に指定されている (出川, 2006)。

ウツギノサルノコシカケ (タバコウロコタケ科)

Porodaedalea lonicerina (Bondarysev) Imazeki

清川村堂平 (20030910202F, 清川村堂平, NT・NM), 山北町棚沢ノ頭～弁当沢ノ頭 (KPM-NC-0011855, 2001/10/3, NM・FT), 山北町大石山 (KPM-NC-0005607, 2001/10/4, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に、県博に秦野市鍋割山 (KPM-NC-0006358, 1992/4/17), 清川村札掛 (KPM-NC-0001606, 1981/9/6), 清川村堂平 (KPM-NC-0007100, 2000/9/10, 日本菌学会関東支部観察会, 服部力同定), 松田町栗の木洞 (KPM-NC-0001604, 1986/11/4), 横浜市鶴見区上の宮 (KPM-NC-0001601, 1980/6/22, 今関六也同定), 茅ヶ崎市天神谷戸 (KPM-NC-0001608, 1988/11/20), 箱根町畑宿玉川大学演習林 (KPM-NC-0001602, 1982/10/3), 箱根町箱根湖尻 (KPM-NC-0001605, 1980/5/30, 今関六也同定), 箱根町明星岳 (KPM-NC-0009400, 2001/12/10) の標本がある。また、平塚市土屋 (1992/7/16), 伊勢原市大山 (1993/5/12), 秦野市栗の木洞 (1990/11/3), 秦野市渋沢 (1980/9/28), 箱根

町浅間山 (1991/11/4), 箱根町 (1992/10/18, 詳細産地は不明) 湯河原町城山 (1990/2/25) で採集されている (城川, 1997)。タニウツギ属に限り発生するとされ (今関, 1989), ハコネウツギやノリウツギからの発生が知られている (小林, 2007) が, KPM-NC-0001604 はニシキウツギから発生していたという。神奈川県ではタニウツギ属の植物はほぼ全県に分布し, ハコネウツギ, ニシキウツギ, ヤブウツギ, キバナウツギの4種と, この他に植栽樹と推定されるタニウツギが知られ (城川, 2001), ウツギノサルノコシカケも県内全域に分布している可能性がある。

ムキタケ (キシメジ科)

Panellus serotinus (Pers.: Fr.) Kühner

清川村堂平 (20031107001 F, 2003/11/7, FT)

神奈川県ではこの他に、自環保セに山北町蛭ヶ岳 (20031101001 F, 2003/11/1), 県博に菰 釣 山 (KPM-NC-0011958, 2003/10/31) の標本がある。

タマツキカレバタケ (キシメジ科)

Collybia cookei (Bres.) J.D.Arnold

秦野市小丸尾根 (20040804004, 2004/8/4, NM)

神奈川県ではこの他に、県博に小田原市入生田 (KPM-NC-0011631, 2003/10/25) の標本がある。

アカチシオタケ (キシメジ科)

Mycena crocata (Schröd.) P. Karst

清川村堂平 (20031008100F, 2003/10/8, 広葉樹倒木上に発生, NT・NM ; KPM-NC-0006455, 2000/10/18, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に、県博にこの他松田町鍋割山稜 (KPM-NC-0000151, 1976/9/15) の標本がある。また、秦野市丹沢鍋割山 (1992/10/17) で採集されている (城川, 1997)。

コガネヌメリタケ (キシメジ科)

Mycena leaiana (Berk.) Sacc.

山北町檜洞丸 (KPM-NC-0008890, 2001/5/18, NM・FT; KPM-NC-0010444, 2001/6/13, NM・FT)。

神奈川県ではこの他に、県博に山北町テシロノ頭付近 (KPM-NC-0008918, 2001/6/1) の標本がある。

ヌメリツバタケモドキ (ホウライタケ科)

Oudemansiella venosolamellata (Imaz.et Toki) Imaz. & Hongo

山北町檜洞丸 (20020523002F, 2002/5/23, ブナ倒木上, FT・NM ; 20020523005F, 2002/5/23, FT・NM ; 20020607001F, 2002/6/7, FT NM ; 20020607007F, 2002/6/7, FT NM ; KPM-NC-0008892, 2001/5/9, NM・FT), 清川村丹沢山 (20010824016F, 2001/8/24, 広葉樹立木上, FT・NM ; 20020606003F, 2002/6/6, FT・NM ; 20030903201F, 2003/9/3, ブナ枯木上, NT・HY・NM ; 20050829007, 2005/8/29, NM ; 20050930017, 2005/9/30, NM ; 20050930016 2005/9/30, NM ; KPM-NC-0009345, 2001/9/19, NM・FT ; KPM-NC-0011712, 2003/10/8, NM・NT), 箒杉沢～不動ノ峯 (20020926022F, 2002/9/26, NN・NM)。

神奈川県ではこの他に、県博に山北町菰釣山 (KPM-NC-0012058, 2003/10/31) の標本がある。

牛島ら (2006) は交配および分子系統学的実験により、ヌメリツバタケと同種として取り扱う見解を支持している。神奈川県産ヌメリツバタケは県博に鎌倉市扇谷八坂神社、大磯町高麗山、平塚市高麗山、逗子市神武寺の標本がある。

ツキヨタケ (ホウライタケ科)

Omphalotus guepiniformis (Berk.) Neda

清川村丹沢山 (20010824005 F, 2001/8/24, ブナ枯木上, FT・NM; 20010824010 F, 2001/8/24, FT・NM; 20030716215F, FT・NT・HY・NM; 20050721009, 2005/7/21, NM), 山北町日高 (20040707010, 2004/7/7, NM), 山北町檜洞丸 (20040902003, 2004/9/2, FT)。

神奈川県ではこの他に、県博に山北町檜洞丸 (KPM-NC-0000206, 1980/8/15), 箱根町姥子温泉付近 (KPM-NC-0010347, 2002/10/11) の標本がある。また、厚木市七沢林業試験場 (1992/10/23) で採集されている (城川, 1997)。

上記産地のうち、厚木市七沢林業試験場についてはブナの自然分布は認められない。京都府平野部でも本種が発生した事例があり、本種の感染した材が移入されたものと推定されている (岩瀬ほか, 2003)。本種は分解の初期に出現することから (深澤ほか, 2007) も、ブナ帯より移入された材から発生した可能性があるが、今後の検討が必要である。現在上記の学名が用いられている (Neda, 2004; 根田, 2006, 2007)。Kirk *et al.* (2001) は本種をホウライタケ科に置いていたが、最新の Index Fungorum (downloaded on 2007-10-12) では Omphalotaceae に置かれている。

タマゴタケモドキ (ウラボニガサ科)

Amanita subjunquilleas Imai

山北町檜洞丸 (20030902004F, 2003/9/2) (図 2)。

神奈川県では大磯町高麗山 (1991/10/13), 秦野市弘法山 (1994/10/24) 松田町寄 (1990/10/14) で採集されている (城川, 1997)。

フチドリベニヒダタケ (ウラボニガサ科)

Pluteus atromarginatus (Konrad) Kühner.

山北町檜洞丸 (20050928015, 2005/9/28, ブナ林, NN・NM), 清川村堂平 (20050624001, 2005/6/24, ブナ林内広葉樹倒木, 越路正・FT・NM)。

城川ほか (2007) によれば神奈川県ではやや稀であるという。

Nagasawa & Hongo (1985) により鳥取市産の標本に基づき日本新産種として報告された。

ハラタケ科の一種 (ハラタケ科)

Agaricaceae sp.

高さ約 12cm, 傘は径 10cm, やや半球形から中高の平ら形に開き、縁部は被膜の破片をつける。黄褐色で中央部は濃色。表面は黄褐色の綿毛状鱗片に覆われるが、細かくひび

割れ、その割れ目は白色を呈する。肉は白色、肉質で堅い。ひだは離生、密、肉色を帯びた褐色で縁部は微鋸歯状。柄は 9 ~ 11 × 1 ~ 2cm, 下に太く基部は細まる。つばより上はクリーム色で綿屑状の菌糸におおわれ、つばより下は傘と同色、または濃色で綿毛状鱗片に覆われるが、ひび割れ、割れ目はクリーム色を呈する。肉は繊維質で内部は髄質。つばは白色 ~ クリーム色で膜質、ささくれる。緑シスチジアは 28 ~ 35 × 5 ~ 6μm, こん棒状。担子器は 4 胞子型。胞子は 6 ~ 8 × 3 ~ 3.5μm, 楕円形。傘および柄の下部の綿毛状鱗片は 240 ~ 350 × 8 ~ 12μm, 菌糸は褐色、厚壁で通直ではなく先端は尖る。

本標本は城川ほか (2007) に掲載されているシロエリカラカサタケ (城川四郎仮称) と一致した。

山北町不動ノ峯 (20030912001F, 2003/9/12, NN・NT・NM) (図 3)。

チャナメツムタケ (モエギタケ科)

Pholiota lubrica (Pers.: Fr.) Singer

清川村長尾尾根 (20021008012F, 2002/10/8, NN・NM)。

神奈川県ではこの他に平塚市土屋琵琶 (1994/9/29), 清川村札掛 (1990/10/10), 清川村辺山 (1991/11/2) で採集されている (城川, 1997)。

同属のナメコは県博に津久井町大室山 (KPM-NC-0000541, 1976/10/11) の標本がある。また、山北町イデン沢で採集されている (城川ほか, 2007)。

アセタケ属の一種 (フウセンタケ科)

Inocybe sp.

傘は円錐形で縁部はやや不規則に裂ける。淡褐色の地に黒褐色の繊維状模様があり、中央部ほど密になる。粘性はない。肉は白色のち赤味を帯び、肉質、やや不快臭がある。ひだは汚褐色で密、湾生、縁部は白色微粉状、小ひだがある。柄は上下同大か下にやや太い。基部は白色菌糸におおわれ、やや膨らむ。表面は赤褐色の繊維状で下に向かい黒褐色となる。黒褐色の鱗片があり、頂部は白色菌糸におおわれる。粘性はなく、肉は繊維質。胞子は広紡錘形で、9 ~ 10 × 5 ~ 6μm。緑シスチジアは 30 ~ 40μm, 薄壁、こん棒状または棍棒状または上部が膨らんだ棍棒状。緑シスチジアは紡錘形、厚壁で 55 ~ 65 × 17 ~ 22μm。

本標本は城川ほか (2007) に掲載されているクロカミトマヤタケ (三村浩康仮称) とほぼ一致するが、肉の変色については記述がなく、詳細な検討が必要である。

山北町檜洞丸 (20040824025, 2004/8/24, ブナ林, FT・NM) (図 4)。

タマウラボニタケ (イッポンシメジ科)

Entoloma abortivum (Berk. & M. A. Curtis) Donk

全体が白色のキノコで、胞子は角張り、7 ~ 9 × 5.5 ~ 6.5μm, 担子器は 2 ~ 3 胞子型。発生地の周辺に白色の菌糸塊がある。

津久井町菰釣山 (KPM-NC-0007526, 2000/10/5, NM・FT)。

白色の菌糸塊は、本種がナラタケ属菌に寄生してできると

いう (Czederpiltz *et al.*, 2001)。
チチアワタケ (ヌメリイグチ科)

Suillus granulatus (L.) Roussel

伊勢原市大山 (20010912003F, 二針マツ, 2001/9/12, FT・NM)。

神奈川県ではこの他に、県博に藤野町 (KPM-NC-0000661, 1979/10/14), 厚木市飯山観音 (KPM-NC-0000833, 1978/10/8), 藤沢市辻堂 (KPM-NC-0007172, 2000/9/14) の標本がある。また、川崎市生田緑地 (井口, 2003), 厚木市広沢寺周辺 (1990/11/3), 清川村宮ヶ瀬 (1991/9/29, 1992/10/11), 松田町寄 (1990/10/14) で採集されている (城川, 1997)。

ヌメリイグチ (ヌメリイグチ科)

Suillus luteus (L.) Roussel

山北町玄倉ユーシンロッジ (20011017001F, クロマツ樹下, 2001/10/17), 檜洞丸 (20010612002F, クロマツまたはアカマツ付近, 2001/6/12, FT・NM)。

神奈川県ではこの他に川崎市生田緑地で採集されている (井口, 2003)。

ヌメリイグチ属はマツ科, まれにヤナギ科と外生菌根を形成し (長沢, 1989), 本調査において採集された本種, およびチチタワタケはいずれも二針葉マツ付近で発生していた。丹沢大山地域におけるヌメリイグチ属の菌は, この他にシロヌメリイグチ (西村・藤澤, 2005), ベニハナイグチ

(城川, 1997) が採集されている。

シワチャヤマイグチ (イグチ科)

Leccinum hortonii (A.H.Smith & Thiers) Hongo & Nagasawa

山北町檜洞丸 (20030902014F, 2003/9/2, NT・MN)。

神奈川県ではこの他に厚木市七沢 (1991/9/5), 清川村宮ヶ瀬 (1991/9/29), 清川村土山峠 (1992/8/16) で採集されている (城川, 1997)。

アオゾメツチカブリ (ベニタケ科)

Lactarius glaucescens Crossland

清川村堂平～丹沢山 (20020821009F, 2002/8/21, ブナ林, NN・NM; 20010814006F, 2001/8/14, FT・NM; 20050811019, 2005/8/11, FT・NM; KPM-NC-0014413, 2006/9/8, FT・NM), 札掛～長尾尾根 (20000922006F, 2000/9/22, FT), 山北町檜洞丸 (20050728009, 2005/7/28, NM)。

神奈川県ではこの他に清川村土山峠 (1992/8/16), 清川村札掛 (1990/10/10) で採集されている (城川, 1997)。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 神奈川県生命の星・地球博物館の出川洋介氏には文献および標本の提供や, 執筆にあたり適切なお助言を頂いた。また, 調査においては神奈川県森林組合連合会の皆様, 長倉泰司氏, 長谷川雄太氏にご協力を頂いた。ここに謹んで感謝申し上げる。

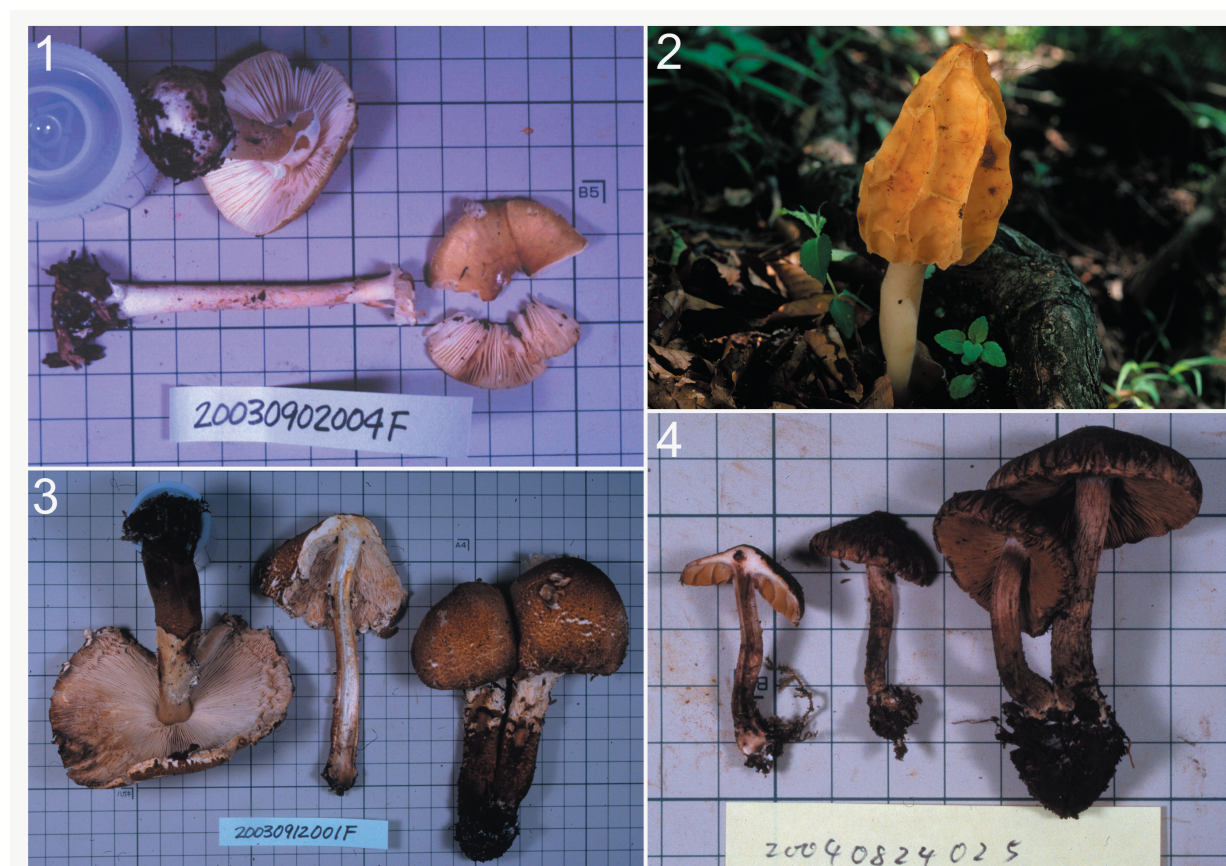


図 1. ヒロメノトガリアミガサタケの子実体 (20020606002F); 図 2. タマゴタケモドキの子実体 (20030902004F); 図 3. ハラタケ科の一種の子実体 (20030912001F); 図 4. アセタケ属の一種の子実体 (20040824025)

引用文献

- Czederpiltz, D. L. L. , Volk, T. J. , Burdsall. H. H. , 2001. Field observations and inoculation experiments to determine the nature of the carpophoroids associated with *Entoloma abortivum* and *Armillaria*. *Mycologia*. 93: 841-851.
- 出川洋介, 2006. 菌類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.147-166. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 出川洋介, 2007. 丹沢の微小菌類相調査. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書, pp.369-374. 財団法人 平岡環境科学研究所, 神奈川.
- 出川洋介・廣岡裕吏・星野 保・細矢 剛・稲葉重樹・岩本晋・勝本 謙・川上新一・喜友名朝彦・栗原裕子・正木照久・升屋勇人・岡田 元・常盤俊之, 2007. 微小菌類 (予報). 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書, 丹沢大山動植物目録, pp.461-472. 財団法人 平岡環境科学研究所, 神奈川.
- 井口 潔, 2003. 川崎市生田緑地のきのこ相. 川崎市自然環境調査報告, (5): 95-143.
- 今関六也, 1989. タバコウロコタケ科. 今関六也・本郷次雄編, 原色日本新菌類図鑑 (Ⅱ), pp.180-192. 保育社, 大阪.
- 岩瀬剛二・小林久泰・大藪崇司・普代貴子・田中安代・川島聡子・下野義人, 2003. 移入種菌類増殖の可能性 - ツキヨタケの場合 -. 日本菌学会第 47 回大会講演要旨集, p64.
- 城川四郎, 1997. 平塚市立博物館資料 (46) キノコ類標本目録. 148pp. 平塚市立博物館, 平塚.
- 城川四郎, 2001. タニウツギ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌, pp.1296-1297. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 城川四郎・三村浩康・井上幸子・藤澤示弘, 2007a. 丹沢の大型菌類 (きのこ) 相. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書, pp.363-368. 財団法人平岡環境科学研究所, 神奈川.
- 城川四郎・三村浩康・井上幸子・藤澤示弘, 2007b. 菌類 大型菌類. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書, 丹沢大山動植物目録, pp.428-460. 財団法人平岡環境科学研究所, 神奈川.
- Kirk, P., P.Cannon, J. David & J. Stalpers, 2001. Dictionary of the fungi. XI + 655pp.CABI Bioscience, UK.
- 小林亨夫, 2007. 日本産樹木寄生菌目録 - 宿主, 分布および文献 -. 1227pp. 全国農村教育協会, 東京.
- Nagasawa. E. , Hongo T. , 1985. Some Agarics from the San-in District Japan Men. *Natn. Sci. Mus.* , Tokyo. (18): 73-88.
- 長沢栄史, 1989. イグチ科. 今関六也・本郷次雄編, 原色新菌類図鑑Ⅱ, pp.1-44. 保育社, 大阪.
- Neda. H. , 2004. Type studies of *Pleurotus* reported from Japan. *Mycoscience*, 45: 181-187.
- 根田 仁, 2006. きのこの学名物語 (5) ツキヨタケ①. 山林 12 月号, pp.52-55. 大日本山林会, 東京.
- 根田 仁, 2007. きのこの学名物語 (6) ツキヨタケ②. 山林 2 月号, pp.46-49. 大日本山林会, 東京.
- 日本植物病理学会編, 2000. 日本植物病名目録 (初版). xix+857pp. 社団法人 日本植物防疫協会, 東京.
- 西村幹雄・藤澤示弘, 2005. 丹沢大山地域の大型菌類について. 神奈川自然誌資料, (26): 39-41.
- 西村幹雄・藤澤示弘, 2007. 丹沢大山地域の大型菌類についてⅡ. 神奈川自然誌資料, (28): 45-48.
- 大谷吉雄, 1980. 日本産ベニチャワンタケ亜目. 日菌報, 21: 149-179.
- 牛島秀爾・松本晃幸・尾谷 浩・長沢栄史・福政幸隆, 2006. 日本産ヌメリツバタケモドキの分類学的再検討. 日本菌学会 50 周年記念大会講演要旨集, p.56.

電子文献

- CABI Bioscience, CBS & Landcare Reserch, 2007. Index Fungorum. Online Available from inetenet: [http://www. indexfun gorum. org](http://www.indexfungorum.org)(downloaded on 2007-10-28).
- 深澤 遊・大園亨司・武田博清, 2007. ブナ倒木の分解にともなう内部菌類群集の遷移 日本森林学会第 118 回大会講演要旨集. Online Available from inetenet: [http://www. jstage. jst. go. jp/article/jfsc/118/0/679/_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/jfsc/118/0/679/_pdf/-char/ja/) (downloaded on 2007-10-12).
- 太田裕子・服部 力, 2007. 木材腐朽菌 *Laetiporus* 属菌の分子系統と交配について 日本森林学会第 118 回大会講演要旨集. Online Available from inetenet: [http://www. jstage. jst. go. jp/article/jfsc/118/0/623/_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/jfsc/118/0/623/_pdf/-char/ja/)(downloaded on 2007-10-12).

(西村: 神奈川県藤沢市湘南台 1-21-24,
藤澤: 神奈川県自然環境保全センター)